

真に魅力のある遠野市に



新田 勝見 議員

【質問】 民間のシンクタンクの調査によると、我が遠野市は地域の魅力度が県内トップであり群を抜いている。一方、市民所得は13市の中で下から2番目であり、県内の平均値より約40万円低い195万6千円である。現在不況に突入し厳しい社会状況にあるが、市として何を、どのようにして市民所得の向上を図

っていくのか。第1次産業においては、アストを中心に振興を図っているが、市における分配所得はわずか3.1%にすぎない。第2次、第3次産業の雇用の確保なども含めた活性化策を推進し、真に魅力ある遠野市を構築することが大切であると思うが。

【市長】 全産業において強化の必要がある。アストを核として、農業生産力の向上、所得の向上を図っていく。第2次・第3次産業については、厳しい経済情勢の中、誘致企業だけではなく地元企業への支援拡充を行い、雇用の場の確保に努めている。

【質問】 検討委員会から3校案4パターンの答申を受け、教育委員会では計画案を設定し、各地区への説明会を実施している。市民からも多くの意見を伺っているが、私としては3校にするという案であればある程度的人数的にも同規模でバランスのとれた3校にすべきと思うが。

【市長】 検討委員会で出された意見等を整理した9つの視点でまとめた。学校数3校については、学校間の交流や切磋琢磨、地域性や通学距離が考慮されている。単にバランスだけでなく、生徒数の減少に伴う課題に一定の改善が図られるとともに、既存校舎の有効活用ができ、学区の歴史、学区の越境などの地域性を考え、全体として最も妥当性のある学区設定と判断している。説明会において、誠心誠意取り組んでいく。



▲若者が夢をもてるような魅力あるまちづくりを

予算等審査特別委員会 12月10日~12月11日

予 算等審査特別委員会(議長を除く21人の議員で構成、委員長菊池民彌議員、副委員長浅沼幸雄議員)は、条例等13件、予算5件の18議案について付託を受けて2日間の審議を行いました。

今定例会では20年度の補正予算と、遠野市行政組織条例の一部を改正する条例の制定や、中学校再編計画等について活発な質疑が交わされました。その結果、全18議案が原案のとおり可決されました。

文化行政の市長部局への移行について

【質問】 元来、教育委員会にの任務として公教育に関する部分も法制化されている。今回の条例改正により図書館・博物館が市長部局に移ることになるが、今まで教育委員会が果たしてきた公教育に対する関わりはどうなるのか。

【答弁】 国の法律の一部改正により、スポーツ・文化に関する事務の弾力化については、「条例の定めるところにより、地方公共団体の長がその事務を所掌することができる」となった。市ではそれを受け、文化行政の一部に関しては市長部局に移し、一元的に所掌し、教育委員会とも連携を図りながら、より総合的に推進しようとするものであり、それ以外の学校教育や生涯教育については、今まで通り何ら変わることはない。

行政組織再編のあり方について

【質問】 来年4月からの行政組織再編は、市民に本当に分かりやすい組織再編なのか。

【答弁】 市民にもわかりやすい組織づくりを一つの方向性として確認して提案している。

【質問】 今度は農業活性化本部に林業振興室を新設するとのことだが、どういった形になるのか。

【答弁】 農林振興課の中に係としてあったものを、今度は農業活性化本部内に林業振興室として位置づけるものである。その事務所については変わらない。

【質問】 農業と林業はつながっており、市民が用件を済ませるには、1ヶ所にあったほうが利便性もいいのではないか。

【答弁】 そういった不便さはあるが、農業活性化本部の部長に所掌させようとするものである。